

【演題】それぞれの努め方

どうか努めて心の内と外とをひとつにし、間違いは悔い改め、真実の徳は内にかくし、うわべのすがたを飾らず、好い事は他人に譲り、悪事は自分がその責めを引き受ける意気ごみをもつべきである。

(正法眼蔵随聞記二一七 p148)

自分で思うことも、言うことも、自分で気がつかないところで悪い事もあるものだから、まず仏道にかなっているかどうかを反省し、また自他のために利益があるかどうかをよくよく反省して後に、善であるようなら行いもし、言いもすべきである。

(正法眼蔵随聞記五八(一) p309)

出家人はもともと財物は持たないのであるから、智恵や功德を宝とする。他人の無道心な間違いなどをすぐさま顔にあらわし、間違いと決めつけてはならない。てだてをめぐらせて、相手が腹を立てないように言うてやるべきである。

(正法眼蔵随聞記五十二 p328)

【引用】正法眼蔵随聞記

水野弥穂子

筑摩書房